

デザイン4つの基本原則

①近接 関連する要素と要素は近くに配置して、関係の薄いものは遠ざける

【近接のポイント】

- 関連するものは近づけて、関連の薄いものは離す
- 要素間に均等な空白を作らない
- 関連するものはグループ化してまとめる
- 視覚的に構造化されるだけでなく、見る人が情報を組織化できる

人は情報を見たときに、位置的に近いものは関係があって、離れているものは関係が薄い … と自然に思う。キレイなデザインの見た目だけでなく、視覚的な配置の関係から情報を組織化して考える。複数の要素でかたまりをつくれれば、そこは関連性が強くて、離れてれば関連が薄い … という構造の組織化が簡単にできてしまう。近接の視覚的な構造、グループ化されているかどうかをチェックするのには、少し離れてデザインを見るとわかりやすい。

②整列 各要素はきちんと整列して配置する

【整列のポイント】

- 整列の基準になる線を設定して、それにこだわる
- 制作物の全ての情報を意識的に配置する
- 制作物の全ての情報が視覚的なつながりを持つように意識する

基本的にこれは全ての要素に当てはまる。ちょっとここに隙間ができたから何かを置こうとか、何となくもうちょっと右へずらそう … とかしないこと。たとえば要素と要素が距離的に離れていても、きちんと整列していれば、要素と要素を結びつける透明な線が生まれる。この透明な線を意識して、各要素を配置する。見えない線を見つけて、その線にこだわって全ての要素を配置してみると、きれいに整列されたデザインができる。整列の基本は制作物の統一感と組織的に構造化すること。近接と組み合わせて、情報を組織的な構造にできる。

③コントラスト 複数の要素ははっきりと違わせること

【コントラストのポイント】

- デザイン上のコントラストは読者の目を引きつける
- 写真やイラストなどのコントラストに気をつける
- 文字のコントラストに気をつける

コントラストには色の濃淡、フォントの大小、線の太さ、余白の大きさなど、いろんな種類がある。見出しは見出しとはっきり分かるように、大きく（もちろん他の方法でコントラストをつけることもあります。）という感じ。長い文章では全文を読まずに、見出しから中見出しへと流し読みする人もたくさんいる。そんな時、中見出しのコントラストがはっきりしている文章は読みやすい。

④反復 デザインの中の何かしらの特徴を、制作物全体を通して繰り返すこと

【反復のポイント】

- デザインの中から特徴的な何かをポイントとして効果的につかう
- 反復を利用して全体に統一感、一貫性を作る

色や形、テキストチャやレイアウトなどなど、視覚的に認識できるものなら何でも OK 。これを行うことで制作物全体に一貫性が生まれる。

4つの原則が生み出す相乗効果

近接、整列、コントラスト、反復と、4つの基本を見てきましたが、どれかひとつだけ使う … というのではなくて、4つの原則を絡めながら、**相乗効果**を狙って上手にデザインしていきましょう。近接だけではダメだし、整列だけではいいデザインはできません。4つを意識しながらデザインすれば、きっと読み手にも優しい素敵なデザインができると思います。気を付けるのは、**ひとつの原則だけが独立して成り立つことはまれで、4つの原則が互いに相乗効果を生む**ということ。これらはあくまで基本。もちろんこの基本を破るのだからです … でもルールを破る前に基本を知っているのといないのでは大きく差が出る。